



芳賀矢一展の経緯を紹介している芳賀矢一展＝22日、坂井市の県教育博物館

「仮名遣い論争」焦点

坂井 県教育博で芳賀矢一展

福井市出身の国文学者、芳賀矢一(1867

～1927年)の特集展示が3月25日まで、坂井市の県教育博物館で開かれている。森鷗外らと繰り広げた「仮名遣い論争」に焦点を当てた内容となっている。

芳賀は東大教授や国学院大学長を務め、日本の文学の発展に大きな功績を残した。今回の展示は、童謡の歌詞を手直した功績を披露した前期展に続く後期展。

仮名遣い論争は1908(明治41)年に始まっ

た。芳賀は、日常の話し言葉で仮名遣いを使う「現代仮名遣い」が好ましいとし、旧来の「歴史的仮名遣い」がふさわしいとする。芳賀はこの論争で敗れたが、戦後、現代仮名遣いが普及したことで、芳賀の先見の明に対する評価は高いという。

展示では、論争の経緯や芳賀の交友関係、明治時代の国語教育の変遷を紹介。芳賀の孫の眞矢子さん(東京)から寄贈された「奉祝唱歌」の直筆の書や眼鏡、懐中時計なども披露している。

(重森昭博)